

夢の研究 その2

—小学生の夢—

稲浦康稔・加藤豊比古・前田研史
弘田洋二・鎌田稜・山本祐子*

Study of the Dream No. 2
—The Dream of School Children —

YASUTOSHI INAURA, TOYOHICO KATO, KENSHI MAETA,
YOJI HIROTA, MINORU KAMATA, YUKO YAMAMOTO

はじめに

筆者らは、「夢の研究その1」⁽¹⁾において、子どもの夢についての諸研究の概観を試み、かつ、中学生を対象として、その報告夢の諸特徴をとり上げ検討した。

本報告では、報告夢が年齢とともにどのように変化を示すかを明らかにすることを目的とした発達の研究の一環として、小学生(4・5・6年)の報告夢について検討する。小学生の夢については、北見による定型夢の発達の研究²⁾などが既にあるが、夢の内容に関する詳細な発達の検討は必ずしも十分とはいえない。したがって、小学生の報告夢の内容分析を行うことによって、小学生の夢の様相を明らかにする。

しかしながら、今回われわれが報告夢の収集に用いている自由再生法による場合、小学生低学年(1・2・3年)では、アンケート用紙に記述すること自体に困難さが認められる。そのため本報告では低学年の報告夢については割愛し、あらためて別に報告することにした。

方法

アンケート用紙を配布し、「さいきんみたゆめで、楽しかったゆめや、へんなゆめなど、どんなゆめでもかまいませんので、おぼえているゆめがあれば、1つ書いて下さい。そしてどんな人がいたか、また、どんなことをしたかなど、できるだけくわしく書いて下さい。」という教示を与えた。そして、再生させたのち、その夢はいつごろみた夢かを記述させる。

こうして採集された報告夢を、Hall, C. S. & Van de Castle, R. L. の“Content Analysis”法⁽³⁾により分析した。統計的有意差は χ^2 検定により求めた。ア

ンケート実施時期は、昭和58年6月であった。

なお、本報告では紙面の都合上すべての分析項目についての結果を報告することが困難であるため、前回の報告と同様、以下の3項目のみをとりあげる。

- 1) “Settings” : 夢報告の場面。
- 2) “Objects” : 夢報告に登場する事物。
- 3) “Characters” : 夢報告にみられる登場人物。

対象

大阪府下の公立小学校3校および私立小学校1校の4・5・6年の男女を対象とした。その総数は919人である。以下は各学年ごとの内訳である。カッコ内は、実際の報告者数(したがって、得られた夢の数)である。

- 4年生: 男子141人(86人), 女子134人(111人)。
5年生: 男子165人(75人), 女子161人(94人)。
6年生: 男子172人(101人), 女子146人(102人)。

結果と考察

1) Settings

表1 aに、“Settings”の各項目ごとの出現頻度、および、1つの夢における夢場面の転回数⁴⁾の平均値(Average number per dream)を示した。また表1 bには“Settings”の各項目における学年間、男女間の有意差を示した。これらの2つの表に示したように、まず夢場面の転回数の平均値は1.3~1.5回で、学年間および男女間にほとんど差はみられない。

夢の場面が“Indoor(室内)”か“Outdoor(室外)”かをみると、各学年、男女とも、“Outdoor”の場面をみることの方が多い。

夢の場面が“Total familiar(知っている場所)”か“Total unfamiliar(知らない場所)”かで見ると、各学年、男女ともに、“Total familiar”が“Total

* 研究生

表 1 a Settings

	4 M	4 F	T 4	5 M	5 F	T 5	6 M	6 F	T 6
Total no. of settings	130	157	287	95	124	219	127	136	263
Average no. per dream	1.5	1.4	1.5	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
Total indoor	40	65	105	27	43	70	44	57	101
Total outdoor	75	80	155	59	70	129	73	64	137
Total ambiguous	12	11	23	6	8	14	9	13	22
No setting	3	1	4	3	3	6	1	2	3
Total familiar	41	54	95	26	50	76	40	52	92
Total distorted	1	4	5	0	0	0	2	5	7
Total geographical	8	3	11	14	3	17	8	3	11
Total questionable	55	78	183	39	45	84	58	58	116
Total unfamiliar	22	17	39	13	23	36	18	16	34
Indoor familiar	25	41	66	16	32	48	25	34	59
Indoor distorted	0	2	2	0	0	0	2	3	5
Indoor geographical	0	0	0	2	0	2	0	0	0
Indoor questionable	10	17	27	8	3	11	12	16	28
Indoor unfamiliar	5	5	10	1	9	10	5	5	10
Outdoor familiar	16	11	27	10	18	28	14	16	30
Outdoor distorted	1	2	3	0	0	0	0	2	2
Outdoor geographical	4	3	7	12	2	14	6	3	9
Outdoor questionable	36	53	89	25	36	61	40	32	72
Outdoor unfamiliar	18	11	29	12	13	25	13	10	23
Ambiguous familiar	0	2	2	0	0	0	1	2	3
Ambiguous distorted	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ambiguous geographical	0	0	0	0	1	1	1	0	1
Ambiguous questionable	12	9	21	6	6	12	7	10	17
Ambiguous unfamiliar	0	0	0	0	1	1	0	1	1

Note : M=Male ; F=Female ; T=Total ; 4=4th grade ; 5=5th grade ; 6=6th grade.

表 1 b tests of "Settings"

	4M-4F	5M-5F	6M-6F	4M-5M	5M-6M	6M-4M	4F-5F	5F-6F	6F-4F	T4-T5	T5-T6	T6-T4
Total familiar		3.983*										
Total geographical		9.473**		4.584*	4.500*							
Total questionable							5.048*				4.783*	
Indoor questionable							6.193*	7.040**				
Outdoor familiar							4.222*					
Outdoor geographical		9.150**		6.208*	4.561*							

Note: M= Male; F= Female; T=Total;
4 =4th grade; 5 =5th grade; 6 =6th grade.

***p .001

**p .01

*p .05

unfamiliar” の約2倍以上ある。男女別にみると、5年生において、“Total familiar” が男子より女子の方が有意に多くなっている。

いっぽう、“Total geographical” をみると、5年生男子以外は、各学年、男女ともに10%に満たない。“geographical” とは、地理的な名称をもった場所として場面が同定されている場合であり、その意味では、その場面を知っているか否かという区別とは別個のものとして扱われるべきであろう。そして、5年生男子は、4年生と6年生の男子より多く、5年生女子よりも多くなっている。

次に、下位項目(表1 aにおける“Indoor familiar”以下“Ambiguous unfamiliar”までの項目)別に分けることにする。男子では、“Outdoor questionable”が各学年とも30%前後あり、“Indoor familiar”がそれぞれ20%弱で“Outdoor questionable”に次いでいる。そして、“Outdoor unfamiliar”や“Outdoor familiar”が各学年とも10%強を示しているが、5年生のみ、それに加えて“Outdoor geographical”も10%を超えている。これは、4年と6年の男子に比べ有意に多く、しかも5年女子に比べても多い。前述したように、“Total geographical”が5年生男子に多いということは、地理的な場所の同定が室外場面と結びつき易いという事情と関連していると思われる。

女子では、男子同様に、“Outdoor questionable”と“Indoor familiar”が多いが、その差は男子よりも小さく、6年生では“Indoor familiar”の方が“Outdoor questionable”よりも1.5%であるが多くなるなど、男子とは多少異なった面を示している。4年生と6年生では、次いで“Indoor questionable”“Outdoor familiar”、“Outdoor unfamiliar”が10%前後あるが、5年生においてのみ、“Indoor questionable”が2%であり、4年生、6年生と比べて有意に少なくなっている。また、5年女子では、4年生と比べて“Outdoor familiar”が有意に多く、他学年と多少異なる様相を示している。

このように、夢の展開場面が“Indoor”か“Outdoor”という点で分類すれば、各学年、男女とも“Outdoor”が多い。そして、男子では5年のみ“Outdoor geographical”が10%を超え、4年、6年に比べて有意に多い。女子においては、5年生が4年生より“Outdoor familiar”を多く報告している。このように、5年生において、同じ“Outdoor”でありながらも、男子では“geographical”が、女子では“familiar”が多くなるという変化を生じている。

2) Objects

表2は、1つの夢に登場する事物の数の分布を示している。その最頻値は、男子では4年生と6年生が3で5年生が1、女子では4年生が2、5年生は1と2が同数

表 2 Number of Objects per Dream

Number of objects	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
0	6	9	15	5	6	11	2	10	12
1	16	16	32	20	23	43	15	24	39
2	12	22	34	14	23	37	20	15	35
3	20	13	33	13	21	34	26	19	45
4	12	19	31	8	9	17	13	14	27
5	6	16	22	9	5	14	10	10	20
6	5	7	12	3	4	7	6	2	8
7	3	5	8	1	3	4	4	2	6
8	3	2	5	1	0	1	1	4	5
9	1	2	3	1	0	1	2	1	3
10	1	0	1	0	0	0	0	1	1
11	0	0	0	0	0	0	2	0	2
12	1	0	1	0	0	0	0	0	0

Note: M=Male; F=Female; T=Total
4=4th grade; 5=5th grade; 6=6th grade.

で6年生が1となっている。また、1つの夢に登場する事物の数の平均値は、表3 aの“Average number per dream”の項目に示されている。これによると各学年、男女とも、3前後となっている。これを中学生をも含めてみると¹⁾、男子ではおおよそ一定していると

表 3 a Objects

	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
Total no. of objects	284	365	650	206	275	481	347	294	641
Average no. per dream	3.3	3.3	3.3	2.8	2.9	2.9	3.4	2.9	3.2
Architecture	60	89	149	50	81	131	87	76	165
AR Residential	25	39	64	15	33	48	34	28	62
AV Vocational	13	18	31	16	14	30	23	24	47
AE Entertainment	1	7	8	3	10	13	11	4	15
AI Institutional	10	5	15	8	3	11	4	6	10
AD Detail	8	18	26	8	18	26	14	13	27
AB Building	3	0	3	0	0	0	1	0	1
AM Miscellaneous	0	2	2	0	3	3	0	3	3
III Household article	15	24	39	14	24	38	11	24	35
FO Food or drink	10	30	40	8	22	30	16	36	52
Implements	28	30	58	21	15	36	45	19	64
IT Tools	2	2	4	4	0	4	2	7	9
IW Weapons	15	3	18	11	2	13	34	1	38
IR Recreational	11	25	36	6	13	19	19	8	27
TR Travel	47	35	82	37	26	63	39	20	59
ST Stairs	6	12	18	8	15	23	14	14	28
IG Regions	7	21	28	9	20	29	17	13	30
NA Nature	58	51	109	22	21	43	43	26	69
Body parts	23	30	53	18	19	37	23	29	52
BI Head	8	13	21	11	14	25	13	12	25
BE Extremities	8	14	22	4	6	10	6	9	15
BT Torso	2	1	3	0	0	0	1	2	3
BA Anatomy	4	2	6	1	2	3	3	6	6
BS Sex	1	0	1	2	0	2	0	0	0
CL Clothes	6	12	18	5	10	15	13	8	21
CM Communication	8	15	23	6	13	19	13	10	23
MO Money	7	7	13	4	5	9	15	2	17
MS Miscellaneous	9	11	20	4	4	8	11	5	17

Note: M=Male; F=Female; T=Total
4=4th grade; 5=5th grade; 6=6th grade.

いえるが、女子では学年とともに次第に減少している。
次に、表 3 a および、学年間と男女間に有意差のある項目を示した表 3 b をみながら、“Objects”の内容こ

つぎに、“NA（自然に存在する室外の事物）”で、男女各々、そして、男女合わせてみたときのいずれにおいても、5年生と6年生は4年生にくらべて少なくなっ

表 3 b tests of “Objects”

	4M-4F	5M-5F	6M-6F	4M-5M	5M-6M	6M-4M	4F-5F	5F-6F	6F-4F	T4-T5	T5-T6	T6-T4
HH Household			7.687**									
FO Food or drink			12.443***									
Implements			7.495**									
IW Weapon	10.225**	7.855**	10.468**									
TR Travel	7.081**				4.927*						4.298*	
NA Nature	4.823*			8.296**		7.492**	6.427*		4.100*	14.567***		9.790**
MO Money			6.829**									

Note: M=Male; F=Female; T=Total;
4 =4th grade; 5 =5th grade; 6 =6th grade.
***p .001
**p .01
*p .05

との諸特徴について検討する。まず、各学年男女とも“Architecture（建築物）”の出現頻度が最も高く、常に“Objects”全体の20%以上を占めている。この傾向は、中学生以降も強まる傾向にある⁽¹⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

“HH（家庭用品）”をみると、6年で、男子より女子が多く、“FO（食物）”でも、6年女子は男子より多く、さらに5年でも同様の傾向が見られる。ただ、この男女差は中学になると消失するため、この時期のみの特徴である。

また、“Implements(道具)”の下位項目である“IW（武器）”において、各学年とも男子の方が女子より多く、この一貫した男女差は、小学校の少なくともこの時期に特徴的なものであり、中学以降はみられない⁽¹⁾。“Implements”の総数でも、6年になると男子が女子より有意に多くなり、この傾向は5年生でも認められ中学1年まで続く⁽¹⁾。“TR（乗り物）”は、4年と5年で男子が女子より多く、しかも、6年男子では5年男子より少なくなっている。したがって、6年男子での減少が、6年における男女差の消失と対応している。中学生以降も男女差はみられないままである⁽¹⁾⁽⁵⁾。また、“MO（金銭）”で6年男子が女子より多い。

このように主に男女差でみたとき、5年から6年にかけて、多くの項目で男女差の消長がみられる。中学以降ではこのような現象はみられず、“Objects”のもつ意味が男女それぞれで、この時期に変化しているとも考えられる。

いる。また、4年生では、男子の方が女子より多い。したがって、男子の方が“NA”の減少のしかたは急速である。ただ、この減少に対応して、他の項目のいずれかが特に増加しているわけではない。女子の場合では、“NA”の減少に対して、5年生では、“Architecture”が、6年生では、“Food”が増加している。

3) Characters

表 4 は、1つの夢に登場する人物（ないし生物）の数の分布を示している。これによると、その最頻値は、5年女子の1、および6年男子の1と2が同数であることを除き、他は2である。また、1つの夢に登場する人物数の平均値は、表 5 a の“Average number per dream”の項目に示した。これによると、男女とも学年による大きな変動は特に認められないが、各学年とも男

表 4 Number of Characters per Dream

Number of characters	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
0	7	2	9	8	3	11	5	5	10
1	26	26	52	23	25	48	32	20	52
2	28	33	61	26	24	50	32	30	62
3	12	28	40	10	24	34	16	22	38
4	5	10	15	5	9	14	10	15	25
5	3	0	3	1	4	5	4	7	11
6	3	2	5	1	4	5	2	3	5
7	1	2	3	1	1	2	0	0	0
8	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9	0	1	1	0	0	0	0	0	0
10	0	1	1	0	0	0	0	0	0

Note: M=Male; F=Female; T=Total;
4 =4th grade; 5 =5th grade; 6 =6th grade.

子より女子の方がわずかではあっても、登場人物数の多い傾向がみられる。

次に、同じ表5 aから、登場人物の特性についてみるが、学年間、および、男女間で有意差のある項目については表5 bに示した。これらの表によると、“Total human characters (登場する人物の総数)”では、4年と5年で女子が男子より有意に多いが、6年では男女差は消失している。学年間では、男子で6年生が4年、および、5年より有意に多い。すなわち、4年、5年で登場人物数が女子より男子の方が少ないが、6年生では男子と女子の登場人物数が同程度になっている。

“Total male (男性登場人物の総数)”では、各学年とも男子が女子より有意に多く、また、5年女子が4年女子より有意に多いが、6年では再び減少している。男女合わせてみると、学年がすすむにつれて増加し、6年では4年より有意に多くなっている。

いっぽう、“Total female (女性登場人物の総数)”では各学年とも女子が男子より有意に多く、また、5年男子が4年男子より少ない。ただ、6年生になるとわずかながら再び増加している。中学、高校と同様に、小学校4年から6年においても、夢報告者と同性の登場人

表 5 a Summary of Characters

	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
Total characters	186	291	477	143	232	375	216	259	475
Average no. per dream	2.2	2.6	2.4	1.9	2.5	3.2	2.1	2.5	2.3
Total animals	34	35	69	16	21	37	21	8	20
Total creatures	19	21	40	18	9	27	12	8	20
Single animals	20	25	45	12	19	31	16	19	35
Plural animals	14	10	24	4	2	6	5	3	8
Total human characters	143	235	368	109	202	311	163	229	412
Total single human characters	99	175	274	74	164	238	129	170	299
Total plural human characters	34	60	64	35	38	73	54	59	113
Total male	82	53	135	58	66	124	118	66	184
Total female	21	120	141	8	91	99	16	108	124
Total indefinite	23	37	60	30	31	61	37	35	72
Total joint sex	7	25	32	13	14	27	12	20	32
Total familiar	90	184	274	64	148	210	105	171	276
Total unfamiliar	43	51	94	45	58	101	78	58	138
Familiar males	58	35	93	41	39	80	76	46	122
Unfamiliar males	24	18	42	17	27	44	42	20	62
Familiar females	19	166	185	6	84	90	10	98	108
Unfamiliar females	2	14	16	2	7	9	6	10	16
Familiar indefinite	7	20	27	12	12	24	11	13	24
Unfamiliar indefinite	16	17	33	20	19	39	26	22	48
Familiar joint sex	6	23	29	8	11	19	8	15	23
Unfamiliar joint sex	1	2	3	3	3	6	4	5	9
Total adults	81	120	201	63	105	168	107	113	220
Total teenagers	5	4	9	1	14	15	8	21	29
Total children	46	111	157	44	83	127	66	95	161
Total babies	1	0	1	1	0	1	2	0	2

Note: M = Male; F = Female; T = Total.
4 = 4th grade; 5 = 5th grade; 6 = 6th grade.

表 5 b tests of “Summary of Characters”

	4M-4F	5M-5F	6M-6F	4M-5M	5M-6M	6M-4M	4F-5F	5F-6F	6F-4F	T4-T5	T5-T6	T6-T4
Total animals						6.197*						
Total creatures		10.041**			5.555*							7.026**
Plural animals	3.973*					4.927*						8.209**
Total human characters	5.508*	7.352**			4.094*	10.382**						14.780***
Total single human characters		6.970**										
Total plural human characters		6.970**										
Total male	55.905***	12.546***	52.335***				5.614*					5.115*
Total female	44.714***	46.390***	71.359***	4.055*								
Total indefinite		6.657**										
Total familiar	5.045*	5.936**	13.759**									
Total unfamiliar	5.045*	5.936**	13.759**									
Familiar male	37.084***	12.420***	22.438***					3.957*				5.211*
Unfamiliar male	9.061**		16.082**									
Familiar female	35.970***	44.815***	73.284***	4.986*		7.191**						
Unfamiliar indefinite		5.162*										

Note: M = Male; F = Female; T = Total;

4 = 4th grade; 5 = 5th grade; 6 = 6th grade.

***p < .001

**p < .01

*p < .05

物が異性のそれより多く出現する⁽¹⁾⁽⁵⁾。このとき、パーセンテージからみると、男子の方により多く同性像が出現する傾向がある。そのなかでも、5年生になると4年生にくらべ、男子ではさらに異性の出現が減少し、女子では異性の出現が増加するという性差がみられる。このことについては後に再び検討する。

“Total indefinite (性の不明な登場人物)” は、5年で男子が女子より有意に多い。4, 6年生とも男女間

の差はみられないが、4年生、5年生の男子の間で有意差がみられ、5年生に“Total indefinite” の数が多いためにこの差が生じた。

次に、“Total familiar (夢報告者が知っている登場人物)” では、各学年とも女子の方が男子より多い。いっぽう、“Total unfamiliar (夢報告者の見知らない登場人物)” では、各学年とも男子の方が女子より多く、しかも、4年生男子より6年生男子の方が有意に多

表 6a Frequencies for all Characters subclasses

Characters	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
1. Family	37	68	105	14	65	79	28	67	95
1MFA Father	11	9	20	6	11	17	11	16	27
1MBT Brother	2	0	2	0	4	4	0	0	0
1MBC Brother	6	7	13	1	8	9	2	7	9
1FMA Mother	10	27	37	4	22	26	9	21	30
1FTT Sister	2	1	3	0	7	7	0	6	6
1FTC Sister	1	8	9	0	7	7	0	8	8
1FYA Family member	0	0	0	0	2	2	0	2	2
1IYA Family	0	1	1	0	0	0	0	0	0
1ITB Sister	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2FYA Family member	0	4	4	0	0	0	0	1	1
2JXA Parents	0	2	2	0	1	1	1	1	1
2JYA Family member	4	8	12	3	2	5	1	3	4
2. Relatives	4	11	15	2	13	15	3	9	12
1MRA	2	3	5	0	0	0	2	2	4
1MRT	1	0	1	0	0	0	0	0	0
1MRC	1	1	2	0	0	0	0	0	0
1FRA	0	5	5	0	4	4	0	5	5
1FRT	0	1	1	0	1	1	0	0	0
1FRC	0	0	0	0	1	1	0	0	0
1IRA	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1IRC	0	1	1	1	3	4	0	0	0
2JRA	0	0	0	0	3	3	0	1	1
2JRC	0	0	0	1	1	2	0	0	0
2IRC	0	0	0	0	0	0	0	1	1
3. Known	38	102	140	38	56	94	66	81	147
1MKA	1	2	3	0	0	0	2	0	2
1MKC	19	9	28	17	10	27	39	5	44
1FKA	1	6	7	0	3	3	0	0	0
1FKC	1	39	40	5	27	32	0	41	41
1IKA	3	9	12	1	1	2	3	3	6
1IKC	0	5	5	1	1	2	1	4	5
2MKA	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2MKT	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2MKC	7	1	8	6	1	7	11	4	15
2FKC	0	14	14	0	5	5	0	11	11
2IKA	0	2	2	1	0	1	0	1	1
2IKC	3	3	6	2	4	6	6	5	11
2JKA	0	2	2	0	1	1	0	1	1
2JKC	2	10	12	5	3	8	3	5	8
4. Prominent	4	1	5	2	4	6	3	10	13
1MPA	3	0	3	0	0	0	2	1	3
1MPT	0	0	0	1	1	2	0	3	3
1FPT	0	0	0	0	1	1	0	1	1
1IPA	0	0	0	0	1	1	0	0	0
2MPA	1	1	2	1	0	1	1	1	2
2MPT	0	0	0	0	1	1	0	2	2
2JPT	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2JPC	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5. Occupational	12	6	18	12	9	21	16	9	25
1MOA	5	4	9	8	7	15	10	3	13
1FOA	0	1	1	1	0	1	0	3	3
1JOA	1	1	2	1	2	3	2	2	4
2MOA	6	0	6	0	0	0	2	0	2
2IOA	0	0	0	2	0	2	1	0	1
2JOA	0	0	0	0	0	0	1	1	2
6. Ethnic	2	0	2	0	1	1	0	0	0
1MEA	0	0	0	0	1	1	0	0	0
2MBA	2	0	2	0	0	0	0	0	0

表 6a Frequencies for all Characters subclasses

Characters	4M	4F	T4	5M	5F	T5	6M	6F	T6
7. Strangers	17	33	50	26	45	71	45	38	83
1MSA	0	0	0	0	2	2	1	1	2
1MSC	0	1	1	0	5	5	0	0	0
1FSA	1	5	6	0	5	5	2	4	6
1FSC	0	3	3	0	2	2	0	0	0
1ISA	7	7	14	5	8	13	5	9	14
1IST	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1ISC	0	2	2	0	0	0	0	0	0
2MSA	1	0	1	0	1	1	6	1	7
2MST	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2FST	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2JSA	0	2	2	3	3	6	3	3	6
2JSC	0	0	0	1	0	1	1	0	1
2ISA	2	1	3	7	7	14	9	7	16
2ISC	1	1	2	1	1	2	0	1	1
8. Uncertain	9	6	15	6	3	9	14	7	21
1MUA	2	1	3	0	0	0	4	0	4
1MUC	0	2	2	0	0	0	1	1	2
1FUA	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1FUC	0	1	1	0	0	0	1	1	2
1IUA	3	0	3	2	1	3	3	0	3
1IUC	0	2	2	0	0	0	0	0	0
2MUA	0	0	0	1	0	1	0	1	1
2MUC	3	0	3	0	0	0	0	0	0
2FUC	0	0	0	0	1	1	0	0	0
2JUA	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2JUT	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2JUC	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2IUA	0	0	0	1	1	2	1	1	2
2IUT	0	0	0	1	0	1	0	0	0
2IUC	0	0	0	0	0	0	0	2	2
9. Dead, Imaginary, and Metamorphoses	10	8	18	9	6	15	8	8	16
Dead	3MPA	3MRA		3MKC	3MRA				
	3ISA			3FSA					
	3IUA			3ISA					
				4ISA					
				4ISA					
Imaginary	5FUA	5MPA	5MPA	5FMÀ	5MSA	5MPA			
		5MPC	5MPA	5MPA	5IUA	5IUA			
	5FPC	5ISA	5FPA						
	5FSA	5ISA							
	5FSA								
	5FSC								
	6FOA								
Metamorphoses	7D	7D	7D	7D	7FRA	7D			
	8CZZ	8CZZ	8CZZ	8ANI	8CZZ	8MPA			
	7MKC	7D	7FMA			7MOA			
	8FKC		8MPA	8ANI		8CZZ			
	7PKC		7MKC	7ANI		7FSA			
	8MKA		8ANI	8FMA		8FMA			
	7FKC		7MPA			7FSA			
	8FKA		8MKC			8FMA			
			7MSC						
			8CZZ						

Note: M=Male; F=Female; T=Total
4=4th grade; 5=5th grade; 6=6th grade.

くなっており、学年がすすむにつれて増す傾向を示している。また、男女合わせてみたときにも、5年と6年は4年より多く、次第に増加している。これらのことから、女子は知っている人物、男子は見知らない人物が登場しやすい。しかし、学年の進行とともに、女子でも見知らない人物の登場は増加している。

ついで、下位項目（表5aにおける“Familiar male”以下“Unfamiliar joint sex”までの各項目）についてみる。“Familiar male”“Unfamiliar male”“Familiar female”をみると、“Familiar male”では、各学年とも男子が女子より有意に多く、“Unfamiliar male”では、4年と6年で男子が女子より多い。“Familiar female”では、各学年とも女子の方が男子より多い。また、“Unfamiliar indefinite”で5年男子が女子より有意に多いという男女差が現われているが、このことが、5年で“Unfamiliar male”に男女差がみられないことと関係していると考えられる。学年差は、“Familiar female”において、5年と6年の男子が4年男子より少なくなっている。したがって、男子では、異性のなかでも見知っている異性の出現が5年を境に減少することが示されている。

これらの下位項目の特徴は、上述した“Total male”と“Total female”の5年生男女における変化と合わせて考えると、5年生において、異性への関係のあり方が異なってくるが示されているといえる。これは、男女の性的成熟度の差を反映していることが1つの要因とも考えられる。

さらに、表6aより、個々の登場人物を、本人との関係という観点から検討する。なお、有意差のある項目については、表6bに示した。これらの表に示されたように、“Family (家族)”では、5年と6年で、女子が男子より有意に多い。女子では各学年間で“Family”の出現に差はみられないが、男子では、5、6年と4年生の間で差がみられる。“Family”の中で、5年生のみ“IFMA (母親)”の出現が男子より女子の方が多くなっている。

“Known (知っている人物)”に関しては、“IMKC (単独で登場した知っている男性)”と“2MKC (複数で登場した知っている男性)”が、ともに各学年とも男子の方が女子より多く、“IFKC (単独で登場した知っている女性)”では、4年と5年で女子の方が多い。女子の、“Known”全体では、5年が4年より有意に少なく、6年も4年より少ない傾向にあるが、5年より増加する傾向にある。また、4年では、女子の方が男子より多い。

“Stranger (他人)”については、6年生では、男子が女子より多く、有意差がみられている。学年間では、男子で5年と6年が4年より多く、女子は5年が4年より多いが、6年では有意差はみられないものの再び減少している。男女合わせてみたときには、5年と6年が4年より多い。

“Uncertain (知っているかどうか明らかでない登場人物)”で、4年のみ男子が女子より多い。

以上のことから男子では、5年、6年になると“Fa-

表 6b tests of “Frequencies for all characters subclasses”

	4M-4F	5M-5F	6M-6F	4M-5M	5M-6M	6M-4M	4F-5F	5F-6F	6F-4F	T4-T5	T5-T6	T6-T4
1. Family		13.966 ^{***}	11.168 ^{***}	8.077 ^{**}		7.388 ^{**}						
1 FMA		3.923 [*]										
3. Known	7.928 ^{**}								11.572 ^{***}			
1 MKC	13.209 ^{***}	10.121 ^{**}	37.035 ^{***}									
1 FKC	20.402 ^{***}	4.999 [*]										
2 MKC	7.210 ^{**}	5.959 [*]	4.217 [*]									
5. Occupational	7.641 ^{**}	4.829 [*]	4.134 [*]									
7. Strangers			4.043 [*]	5.025 [*]		6.810 ^{**}	5.023 [*]			9.832 ^{**}		5.912 [*]
8. Uncertain	3.857 [*]											

Note: M=Male; F=Female; T=Total;

4=4th grade; 5=5th grade; 6=6th grade.

***p .001

**p .01

*p .05

family”の登場が減少するのにもない“Stranger”が多く現われ、これが“Total unfamiliar”の増加をもたらしていると考えられる。いっぽう女子では、“Family”の出現に変化はないが、“Known”が5年で最も減少し、これにともなって“Stranger”が増加するという男子との差異が明らかになった。また、女子は男子にくらべ“Total familiar”が多いが、これは、4年では“Known”の男女差、5年と6年では、“Family”における男女差によりもたらされていると考えられる。

つぎに、表6aと表6bの“Total animals(単独および複数で登場する動物の数)”では6年男子は4年男子よりも少なくなっており、学年がすすむにつれて減少している。また“Total creatures(単独および複数で登場する架空の人物ないし生物の頻度)”では、5年生で男子の方が女子より多く、また5年男子より6年男子で少なくなっている。男女合わせてみたときは、4年より6年が少なく、学年がすすむとともに減少している。この“Total animals”と“Total creatures”の、とくに6年生男子における減少は、“Total human characters”の6年生男子での増加と対応している。そして、これ以降、中学、高校においても低い出現率のままである⁽¹⁾⁽⁶⁾。

ロールシャッハテストでは、動物反応が多く出現することは、精神発達の未成熟さを反映していると考えられる⁽⁶⁾。また、人間類似と動物類似の反応は、子どもらしい空想の所産とされる⁽⁷⁾。したがって、報告夢における“animals”や“creatures”の特定の学年における減少は、発達のひとつの節目を示しているのかもしれない。しかし、女子では、男子のような変化がみられないことも含め、今後動物や架空の生物が報告夢の中で、夢報告者とどのような関係にあるか検討していくことが必要である。

以上“Settings”“Objects”“Characters”の3項目についてみてきたが、いずれの項目においても、5年生ないし、5年生から6年生にかけての時期に、それぞれ特徴的な展開を示していることが注目される。何らかの発達上の節目が存在しているとも考えられ、今後さらに他の項目についても同様の現象が認められるかどうか検討してゆきたいと考えている。

要 約

夢を発達的な観点から捉えることを目的に、小学生(4, 5, 6年生, 計919人-男子478人, 女子441人)を対象として調査を行なった。夢は自由再生により採

集され、“Content Analysis”法(Hall, C.S. and Van de Castle, R.L.; '66)に基づき分析された。ただし、本論文では“Settings”“Objects”“Characters”の3項目について検討した。

1) “Settings”: 男子では、5年で“Total geographical”が4年と6年と比べ多く出現し、学年差および男女差もみられるという特徴が示された。女子においても5年で、“Total familiar”が増加し、“Total unfamiliar”の4年よりの増加と“Total familiar”が男子より多く報告されているため、5年の特異性と考えられる。

2) “Objects”: 各学年男女とも“Architecture”の出現頻度が最も高い。さらに、男子では、“IW”が各学年とも女子より多い。また、“Implements”と“MO”が6年で女子より多くなるのに対し、“TR”は男女差がなくなる。女子では、“HH”と“FO”が6年で男子より多い。また、“NA”では男女ともに5年、6年が4年より少ない。

3) Characters: “Total human characters”は6年になって男女差が消失するが、それまでは女子の方が多し。また、男女ともに、夢報告者と同性の人物が登場しやすく、特に男性の方にその傾向がある。そのなかでも5年になると、男子はさらに異性、特に“Familiar female”の出現が減少しはじめる。これに対し、5年女子では逆に異性の出現が増加するという5年の特異性が示された。また、各学年とも“Total familiar”は女子に多く、これは4年では“Known”、5年と6年では“Family”の男女差によるものである。いっぽう、“Total unfamiliar”は各学年とも男子の方に多く、学年とともに増加するが、これは5年、6年での“Family”の減少と“Stranger”の増加による変化と考えられる。

付記) 本論文の一部は、関西心理学会第95回大会において発表された⁽⁸⁾。

最後に、本論文の報告夢を採集するにあたり多大の御協力をいただいた関係小学校の先生方、そして生徒諸君に心から感謝いたします。

文 献

- 1) 稲浦康稔, 加藤豊比古, 前田研史, 鎌田穰, 弘田洋二: 夢の研究 その1-中学生の夢-, 本紀要, 30, 217~227 (1982)
- 2) 北見芳雄: 定型夢の研究, 精神分析研究, 4 (5-6), 2~4, (1982)

- 3) Hall, C.S. and Van de Castle, R.L. :
The Content Analysis of Dreams, Neredithpub.
Co. (1966)
- 4) 稲浦康稔, 加藤豊比古, 前田研史, 弘田洋二, 鎌田
穰: 夢の研究(1) —中学生の夢の内容分析, 関西心
理学会第94回大会発表論文集, 28 (1982)
- 5) 稲浦康稔, 加藤豊比古, 前田研史, 弘田洋二, 鎌田
穰: 夢の研究(3) —高校生の夢の内容分析—, 日本
心理学会第47回大会発表論文集, 545 (1983)
- 6) Klopfer, B & Davidson, H.H. : The Ror-
schach Technique, New York, World Book
(1962), 河合隼雄(訳) ロールシャッハ・テクニク
入門, ダイヤモンド社(1964)
- 7) 片口安史: ロールシャッハ・テスト心理診断法詳説,
牧書店(1960)
- 8) 稲浦康稔, 加藤豊比古, 前田研史, 弘田洋二, 矢野
隆子, 鎌田穰, 東順子: 夢の研究(6) —小学生の
夢— 関西心理学会第95回大会発表論文集, 38 (1983)

(昭和58年11月8日受理)

Summary

We had described the reported dreams of junior high school students in the previous paper. In this paper we studied those of 919 schoolchildren (4th, 5th and 6th grade; 10~12 yrs old) —478 males and 441 females. We also used the items of the "Content Analysis" (Hall, C.S. & Van de Castle, R.L.; '66) to analyse their reported dreams.

1) Settings; 5th grade males reported significantly more "Total geographical" than 4th & 6th grade ones, and a significant difference was seen between the sexes at 5th grade. 5th grade females reported significantly more "Total unfamiliar" & "Total familiar" than 4th grade ones. 5th grade females reported significantly more "Total familiar" than that of males.

2) Objects; Of all grades of both sexes, "Architecture" was reported most frequently. Through all grades males reported more "IW" than females. At 6th grade males reported "Implement" & "MO" more frequently than females, and there seen no significant sex difference in case of "TR". 6th grade females reported "HH" & "FO" more frequently than that of males. Both sexes at 4th grade reported "NA" more frequently than those of 5th and 6th grades.

3) Characters; Significant sex differences as to "Total human characters" were seen at 4th & 5th grade, but not at 6th grade. In all grades females reported "Total human characters" more than males. Through all grades both males and females tend to report persons of their own sexes. And at 5th grade, males reported the opposite sex less, while females the opposite sex more. In all grades, females tend to report "Total familiar" more frequently than males, while males more "Total unfamiliar" than females.